

## 3-12. 一般社団法人飛騨市観光協会（岐阜県飛騨市）

### (1) 地域の概要

---

#### 【人口】

25,969名（平成26年10月1日現在）

#### 【地勢】

岐阜県の最北端に位置し、北は富山県、南は高山市、西は白川村に隣接する。県庁所在地の岐阜市から約150km、高山市から北約15kmに位置する。

#### 【面積】

総面積792.31平方キロメートル

#### 【気候、自然】

気候は海拔高度が高いところが多いため、東北地方北部や北海道南部と似て、夏は涼しく冬は雪が多く寒さが厳しい。全体的に内陸気候であり、気温は年平均で10℃である。また、周囲を標高3000mを越える北アルプスや飛騨山脈などの山々に囲まれ、総面積792.31平方キロメートルの約93%を森林が占める。

#### 【歴史】

城下町として栄えた「古川町」、かつて“東洋一の鉱山”といわれた鉱山町「神岡町」、天生県立自然公園、池ヶ原湿原など自然資源豊かな「河合町」「宮川町」の2町2村が平成16年2月1日合併し飛騨市となった。

#### 【観光】

古川町の“瀬戸川と白壁土蔵街”の風景や、起し太鼓に代表される古川祭の他、近年は廃線を利用した「レールマウンテンバイク」などが注目されている。また、天生県立自然公園や池ヶ原湿原など北飛騨エリアの森の入込者数も増加傾向にある。

#### 【地域資源の概要】

飛騨市と白川村にまたがる「天生県立自然公園」と三湿原（天生湿原、池ヶ原湿原、深洞湿原）は岐阜県より全国に通用する観光資源“岐阜の宝もの”に認定されている。

天生県立自然公園には変化に富んだ雄大で懐深い自然が残り、ミズバショウやニッコウキスゲが咲き誇る湿原と、ブナやカツラの大木が林立する原生林がある。

飛騨市内にはそれぞれに特徴ある異なった植生を持つ3つの湿原（天生湿原、池ヶ原湿原、深洞湿原）があり、魅力あるエコツーリズムのフィールドとして回遊することができる。



天生県立自然公園



池ヶ原湿原

## (2) アドバイザー派遣申請の背景

---

### 1) 地域課題

- ・エコツーリズムの推進を、いかに地域振興に繋げるか。またその効果をどうやって測定するか。
- ・入山者等の、地域での消費額が分からない。闇雲に数の増加を狙うのではなく、業として質の高いエコツーリズムを推進するためにデータ収集の手法、実施が必要。
- ・自然資源の利用と保全をいかに両立するか。貴重な動植物の採集などが行われている事例もあり、保全のシステムの確立が必要となっている。
- ・地域が協働したエコツーリズムの推進体制をいかに確立するか。  
今後、北飛驒エリアをカバーしたエコツーリズムの推進体制を作ることが必要である。  
アドバイザーによる上記課題への専門的見地からの助言や指導を受け、課題の解決に向けた支援を頂くため今回申請した。

### 2) これまでの取組

過去4カ年に亘り、飛驒市を中心とした「北飛驒の森」エリアにおける森の保全と利活用の取組を行ってきた。

- ・森の中での携帯トイレ使用ブースの設置・運用
- ・地元バス会社と連携したシャトルバスの運行
- ・宿泊・日帰りツアーの開催
- ・ヨシの除伐と根切りなど湿原の植生回復事業の実施      ほか

## (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	◆ 1回目：平成 26 年 10 月 23 日（木）～24 日（金） ◆ 2回目：平成 27 年 1 月 19 日（月）～20 日（火）
場 所	岐阜県飛騨市
ア ド バ イ ザ ー	株式会社ピッキオ 代表取締役 楠部 真也 氏
参 加 者	◆ 1回目：14 名 ◆ 2回目：15 名
スケジュール・方法	◆ 1回目 【1日目】 ・意見交換会：地域の問題の共有、課題の明確化 【2日目】 ・視察：池ヶ原湿原、種倉地区 ・打合せ ◆ 2回目 【1日目】 ・意見交換会：エコツーリズム推進法に基づく全体構想について ・打合せ：全体構想策定にあたっての具体的スケジュールについて

## (3) アドバイスの内容

### 1) 1回目派遣

#### ①意見交換会

参加者から下記の課題・質問があり、楠部氏からのアドバイスがあった。

#### ア. 体験観光に移行している中で、多様なニーズに合わせた商品が必要。

一過性の商品はできても、腰を据えて事業を行う事業者が現れない。

→なぜ事業者が育たないのか。儲からないからではないか。日本全体の傾向として観光を観光客数で捉えてしまいがち。本当に必要なのは、観光消費額。飛騨市の中でそのデータはあるか。分かるのであれば、その消費額を増やすため目標数値を作ることが必要。

#### イ. 飛騨市のターゲットとして有望なのはどこか。

→ i. 飛騨エリアに訪れる外国人旅行者は大変多い。特に高山までは、外国人旅行者は来ている。ここに対しての打ち手はあるのか。日本国内の観光市場は、2030 年までに3分の2に減ってしまう。飛騨市の資源は、本物が残っており外国人に魅力あるものがある。

ii. 北飛騨の森は確かに魅力があるが、首都圏近郊にも素晴らしい森はある。軽井沢も東京から呼ぶことは意識していない。むしろ軽井沢に来てくれたお客さんに来てもらえばいいという意識である。飛騨市においてもせっかく高山市までお客さんは来ているので、ここのお客さんと呼んで来ればいい。欧米系の旅行者は、トレッキング需要もあることから、この

ニーズを汲めればうまく飛騨市に来てもらえる可能性がある。そういった取組はできるのでないか。

**ウ. 具体的にはどんな方法でこの地域をPRしていけばいいか。**

→高山とは観光協会などといかに繋がっていくか、また行政間同士で連携が取れるかどうか。飛騨市とうまく手を組むことで、外国人の満足度を上げることも可能なはずだ。双方にとってプラスになる関係づくりを目指してはどうか。

**エ. ブルーシートを広げてギフチョウを獲っている光景を観る。飛騨市河合町はギフチョウの保護地域であるが、その他の地域にも生息しているにも関わらず、保護する仕組みがないことから自由に獲られてしまっている。**

→エコツーリズム推進法に基づく全体構想を飛騨市で作成した場合、特定自然観光資源とすれば罰則を設けることができる。全体構想を作成している地域は少ないが、ギフチョウを守りたいというのであれば、この構想を作るのもひとつの手だ。

**オ. 全体構想は具体的にどの機関が作成するのか？**

→基本的には行政が提出する。環境省、国交省、農水省、文科省が主務官庁として認めることで、地域が全体構想の認定地域になる。

このほか、下記の意見や課題が参加者より挙げられた。

**カ. 天生県立自然公園について**

・天生県立自然公園の現在の一番の問題は、獣類による食害。特にイノシシによる食害が深刻。ミズバショウを掘ってしまう。現在は、保護する区域を物理的に囲う方向で考えている。

**キ. 深洞湿原について**

・以前、深洞湿原について自然資源の保全の仕組みを地元で提案したところ、地元は現状維持を望んだと聞いている。その森がお金を生める場所であると分かってくれば、関わってくれる人も増えてくるのではないか。  
・ツアーを組み、実績をつくることで地元の意識が変わると並行して保全の取組について話し合いをしていく必要があるのではないか。  
・地元が動かなければ、補助金をつぎ込んでも、意味がない。  
・取組自体を評価してもらえることが、結果的にこの地域の評価につながる。

**②視察**

飛騨市の観光資源を講師に観て頂くため、宮川町の種蔵地区および池ヶ原湿原を地元ガイド（飛騨市・白川郷自然案内人会）と共に、周っていただいた。

**2) 2回目派遣**

**①全体構想策定から国に提出するまでに要する期間は？**

→地域より異なる。ある問題に関して議論がある場合には、それ相応の時間を要

する。

## ②ルール（規制）も全体構想に入るのか？

→ルールも全体構想に入る。シンプルに作ることも、時間を掛けて厳しく作ることも可能。そのルールの中にギフチョウを入れることで、この地域では何を大事にしているかをアピールできるのではないか。

ギフチョウを特定自然観光資源に入れることで、チョウの捕獲者にこの地域では獲りづらいという印象を与えることができる。

## ③エリアの選定にあたって、考慮すべき点は？

→ガイドツアーの実施にあたって、町外のエリアも入る場合は、そのエリアも含めて全体構想を作るケースもある。飛騨市の実情に合わせて、高山市や白川村の一部を入れるということも考えられる。

## ④作業部会の形成の起点をどこに作ればいいのか。飛騨市全域で議論することになると、集めるべき参加者の数が相当数になるのではないか？

→やり方として、ある町は部会を作る前は当初、5名～6名で議論を始めた。その後お宿が入り、対象エリアに国有林が入った時点で森林管理署が入った。部会参加者の集め方については、その町、地域に応じた形で考えて作ればいい。

このほか、下記の意見や課題が参加者より挙げられた。

## ⑤全体構想策定にあたって、対象となるエリアについて

- ・白川村も飛騨市と自然資源の保全や観光について問題点が一致するところが多い。同じエリアとして括れば周遊観光としてはいいのではないか。
- ・まずは飛騨市をエリアとして考えて、その中で山之村や深洞湿原なども含めて十分な議論をすべき。自然環境を保全・保護しながら観光を進めていくという看板の中で、ギフチョウはそのシンボルとして捉えていけばいいのではないか。

## ⑥その他

- ・天生峠に欧米系の外国人が自転車を押して来ている。従来型の観光の捉え方が通じない時代が来ている。いままでやってきた観光施策について整理する時期に差し掛かっているように感じる。
- ・今、欠けているのは自然資源をいかに活かして取り組んでいくのか、高山にきた外国人をいかに取り込んでいくか、その方策の共有ができてない。これから進むべくデザインをつくるにあたって、うまく全体構想を使っていければいい。
- ・楠部氏には全体構想の策定にあたって、是非関わっていただきたい。この地域を知っていること、そして第三者の視点が必要である。

#### (4) アドバイザー派遣実施の効果

---

##### 1) 参加者や関係者に与えた効果

###### ①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

飛騨地域が持つ具体的な可能性についてイメージが湧いた。特に、外国人旅行者から評価される可能性が高い地域であること、またそれらの人々にトレッキングの需要もあり、森まで足を延ばす可能性があること。

###### ②今まで課題としていたことがより明確になった

ギフチョウなどの希少な動植物をどうやって護っていくか。地域の中で保全の仕組みをいかに構築するか。

###### ③今までの課題に対して取組方が分かった

エコツーリズム推進法に基づく全体構想を作成、認定されることにより、自然の利活用と保全の仕組みを作れる

###### ④エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

飛騨地域が持つ具体的な可能性についてイメージが湧いた。特に、外国人旅行者から評価される可能性が高い地域であること、またそれらの人々にトレッキングの需要もあり、森まで足を延ばす可能性があること。

###### ⑤今まで課題としていたことがより明確になった

ギフチョウなどの希少な動植物をどうやって護っていくか。地域の中で保全の仕組みをいかに構築するか。

###### ⑥今までの課題に対して取組方が分かった

エコツーリズム推進法に基づく全体構想を作成、認定されることにより、自然の利活用と保全の仕組みを作れる

##### 2) 今後期待される効果

- ・今回のアドバイスをきっかけとして、より森林資源の利活用についての議論が活発に行われることが期待できる。
- ・希少な動植物を保護する制度・体制が不十分であることが明確となり、具体的な取組に向けて動き出す機運が生まれただけでなく、講師のアドバイスによりその方策が分かった。
- ・エコツーリズム推進法に基づく全体構想を作成、認定に向けた取組が、今後具体的に動いていくことが期待できる。

##### 3) 今後の取組

上述の課題・問題点の解決、そして将来構想の構築に向けて、エコツーリズム推進法に基づく全体構想の策定とそれに伴う実際のアクションの実施。

## (6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

---

### 1) 参考となった事項

「エコツーリズム推進法に基づく全体構想」策定市町村の実例

特に講師より、群馬県みなかみ町の事例についてご教授頂き、大変参考になった。

<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/index.html>

- ・東京都小笠原村の事例を基にお教え頂いた、マーケティング調査の重要性。
- ・エコツーリズム全体構想策定の有用性、またそれに伴う具体的活動について。

### 2) その他感想

外部有識者に入って頂くことで、いままで明確になっていなかったことが浮き彫りとなり、また具体的な今後の方策についてアドバイス頂けた

【記録写真】



種蔵地区の様子



池ヶ原湿原視察の様子



話し合いの様子

## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社ピッキオ 楠部 真也 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

岐阜県飛騨市は岐阜県北部に位置する山間の町です。観光地として有名な飛騨高山に隣接し、明治の頃の古い街並みや段々畑など日本の里山風景を各所に残している地域です。里山型のエコツアーは市内各地で展開されており、ツアー参加者も増えている状況です。

#### ②課題

飛騨市の取組の課題は、集客であろうと思われます。ガイド業を生業とできるほどの集客はいまだありません。また、ギフチョウなどの自然資源の保護についても課題がある状況です。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①魅力を感じた地域資源

古川の街並み、種蔵の里山風景、池ヶ原湿原など

#### ②上記地域資源に魅力を感じた理由

古くから残されている古川の街並みには今も住民が生活しており、観光地化されたものではありません。本物志向の観光客にとっては非常に魅力的に映ります。また、種蔵の里山風景や池ヶ原湿原もツアーに組み込むことで魅力を向上させることができると考えられます。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

飛騨市は観光協会なども含めてエコツーリズムに取り組んできており、地域協議会を作る下地はできていました。地域の課題として観光消費の増大、市としての観光の大きな方針の策定、自然資源の保護というものがありませんでしたので；

#### ①他地域との連携強化

#### ②全体構想の策定

の2点を中心にアドバイスとして伝えました。

- ①飛騨市は近隣にも大きな魅力を持った地域が存在します。まず、海外観光客が非常に多く集まってきている高山市（年間入込約 400 万人）そして世界文化遺産として認知度の高い白川郷（年間入込約 120 万人）です。現在、飛騨市は白川村とは連携することを始めていますが、高山市とはまだという状況です。飛騨市には滞在の魅力となるような資源が豊富にあり、高山や白川の課題である“滞在日数を増やし、観光消費を増大させる”という点には貢献できますので、集客が必要な飛騨市と良い意味で連携ができると考えられますので、色々な障壁

があるのは理解しますが、何とか前に進めることができればと考えます。

- ②飛騨市周辺ではギフチョウの乱獲が問題となっているとのこと。これを何とかするため、全体構想を用い、ギフチョウを特定自然観光資源とすることによってしっかりと保護できないかという検討を進めています。また、飛騨市の観光政策の基盤をしっかりとするという意味でも全体構想への取組は効果があるのではないかと思います。

#### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

##### ①全体構想への取組状況について

飛騨市は、エコツーリズム全体構想に取り組む予定でいます。

##### ②全体構想への意向について

積極的な意向があり、2015年度から取り組むことになろうかと思われま

##### ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

地域内の理解が必要と思われま

#### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

今回は2回訪問させていただきました。飛騨市には典型的な里山風景が各所に残り、世界文化遺産の白川郷、多くの観光客が訪れる飛騨高山があり、資源面、観光面からも有望と言えます。資源、観光の両面を揃えられる地域はあまり多くありません。飛騨市や集落単独ではなく、なるべく広く見ることで、Win Win の関係を構築し、少しでも観光消費が増え、貴重な自然資源が保護できるような仕組みを作っただけであればと思います。ありがとうございました。